

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02524

研究課題名(和文) 精神分析的教育学の新たな展開 教師教育・保育者養成への接続可能性の検討

研究課題名(英文) New Developments in Psychoanalytic Pedagogy: Examining the Possibility of Connection to Teacher and Nursery Teacher Education

研究代表者

下司 晶 (Geshi, Akira)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00401787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：フロイトが創始した精神分析は、20世紀以降の教育に多大な影響を与えてきたが、本研究では、特に2000年代以降の精神分析の知見を教育に応用する手法を検討した。なかでも、デボラ・P・ブリッツマン博士(ヨーク大学、トロント)の仕事に着目した。ブリッツマン博士は、精神分析理論自体に教育学的な課題をみいだすとともに、その成果を大学等での教師教育、具体的には初等中等学校教員の養成と現職教員の研修にも応用している。本課題は、彼女の理論と実践を検討することを中心とした。またこれとともに、イギリスの保育者養成の動向や、アルチュセール思想と精神分析との関連を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神分析は一般に、精神医学や臨床心理学の領域で受容されてきた。しかし、精神分析が20世紀以降の教育に大きな影響も与えてきた点は、十分に研究されているとは言いがたい。特に、日本国内では、ほぼ研究がなされていないといってよい。それに対して本研究では、精神分析と教育の新たな関係を問い直した。この点は大きな学術的意義を有すると考えられる。また、社会的意義としては、教員養成や保育者養成に、新たな視点をもたらすと考えられる。しかしそれは、教育に新たなマニュアルをもたらすということではない。教育を転移-逆転移関係から読み解くことで、教育者に新たな自己省察をもたらすものである。

研究成果の概要(英文)： Psychoanalysis, founded by Freud, has had a profound influence on education since the 20th century. This study examined some methods of applying the findings of psychoanalysis in education, especially since the 2000s. In particular, the study focused on the work of Dr. Deborah P. Britzman (York University, Toronto), examining her theory and practice. Dr. Britzman notes the pedagogical challenges that are inherent in the psychoanalytic theory. Her work has new implications for teacher education at the university level and elsewhere, and specifically in elementary and secondary school teachers' and in-service teachers' training. Further, this study examined trends in nursery teachers' training carried out in England, and also the relationship between Althusser's thought and psychoanalysis.

研究分野：教育学

キーワード：教育学 精神分析 フロイト 保育学 教育哲学 教育人間学 教師教育 保育者教育

1. 研究開始当初の背景

S・フロイトが創始した精神分析ほど、20世紀以降の教育言説に大きな影響を与えてきた思想はない。20世紀前半には、精神分析家が精神分析の知見を学校教育に応用する「精神分析的教育学」も試みられた。しかしウィーンを中心とするドイツ語圏の精神分析的教育学は第二次大戦期に一度途絶え、1990年頃まで十分に再興はなされなかった。

ところが2000年代以降、精神分析と教育の関係には新たな展開が見られるようになった。精神分析的教育学はウィーンを中心に再びの隆盛を見せているし、カナダやイギリスでは、精神分析は教師教育や保育者養成に応用する試みが広がっている。そこで本課題は、後者も広義の精神分析的教育学としてとらえ、これらの新たな動向を検討した。

2. 研究の目的

本課題の目的は、第一に、精神分析と教育の関係を改めて問い直すことによって、新たな教育理論・人間形成論を見いだすことである。そして第二に、本研究課題で示された新たな教育理論・人間形成論によって、現在行われている教師教育・教員養成や、保育者養成のあり方に新たな視点をもたらすことである。

3. 研究の方法

本研究では、精神分析理論を専門的に学んできた教育学研究者たちが協同して、精神分析と教育の新たな関係について検討した。その際特に、カナダの教育学者であり精神分析家のデボラ・P・ブリッツマン、イギリスのタビストック式乳児観察法で有名なエスター・ピック、そしてフロイトの遊び論と死の欲動論、マルクス主義と精神分析を連結しようとしたルイ・アルチュセールのしごとを参照した。

本研究の方法は、文献の読解が中心であった。これは、当初予定していた海外での学術調査が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより実施できなかったことによる。

海外の研究者とはオンラインで連携してきた。特に、カナダのデボラ・P・ブリッツマンとは連携をとり、彼女の著作 *Freud and Education* を翻訳した。

4. 研究成果

精神分析は一般に、精神医学や臨床心理学の領域で受容されてきた。しかし、精神分析が20世紀以降の教育に大きな影響も与えてきた点は、十分に研

究されているとは言いがたい。特に、日本国内では、ほぼ研究がなされていないといってよい。というのも、これまで精神分析は精神医学・臨床心理学といった分野で研究されるものであり、教育学・保育学の対象とは考えられてこなかったからである。しかし、歴史的にみれば、教育学や保育学と精神分析は密接なかんけいにあったし、精神分析研究と教師教育・保育者養成のも、接続してきたと考えられる。

そこで対して本研究では、精神分析と教育の新たな関係を問い直した。この点は大きな学術的意義を有すると考えられる。

主な成果は、以下の通りである。

まず、カナダのデボラ・ブリッツマンの研究を参照しながら、精神分析と教師教育との関係をあきらかにした。フロイトの教育思想とその今日的意味とは何か。フロイト思想の全体像を吟味しつつ、フロイトと教育の関係を問い直した。ブリッツマンは教育学者かつ精神分析家であり、教育者が自らの無意識を反復し、自らが子ども時代に受けた扱いを再現してしまう『『乱暴な』教育』の問題点を指摘し、教育を精神分析と同様、自らを知的対象として捉えることを提唱する。これこそ、フロイト思想が現代の教育に与える示唆のうち最も大きなものである。

次に、フロイトの死の欲動論から、乳幼児における遊びの意義を再検討した。フロイトは『快原理の彼岸』において、幼児の糸巻きの遊びの背後に、死の欲動が存在すると主張した。しかしこうした観点は、ネガティブな子ども像を示すものとして、しばしば黙殺されてきた。そこでフロイトの『快原理の彼岸』に立ち戻り、糸巻き遊びを死の欲動の原理で再解釈することを試み、遊びにおいて自我発達が推進されるという側面と自我という自他境界が融解して退行するという側面、両者が絡み合いながら個としての輪郭を屹立させていくという自我発達のプロセスをあきらかにした。

さらに、ルイ・アルチュセールと精神分析については、社会思想・社会科学と、精神分析的な認識論を接続した。現代の学校教育は、経済格差や社会的不平等が拡大しているなか、結果的に階級支配を正当化する装置となっている。そこでアルチュセールの思考をたどることで、諸個人を階級支配のイデオロギーから「断絶」し、科学的認識へと導くための新たな教育原理の提示を試みた。その際、フロイトのエディプス・コンプレックスが重要な役割を果たしていることを示した。

また、フロイト思想の現代的意義として、現代日本の道德教育への精神分析理論の応用について検討した。フロイトの示した第二局所論、すなわち自我-エス-超自我の区分は、もとより人間の倫理性、道德性を示すものとしての超自我と、欲望を代表するエスを自我が調停するというモデルであった。またフロイトは、快原理を現実原理に置き換えることこそが教育の役割であると述べた。しかしこのような観点は 上記の、アルチュセール研究の課題意識ともつながるが 現状肯定のイデオロギーとなってしまう可能性が否めない。そこで、道德教育においては、カント-フロイト-ピアジェ-コールバーグ-ギリガンをつなぐ観点から、自らがたてた道德律に従うのみならず、

既存の道徳をも問い直すことの必要性を提示した。

しかしそもそも、フロイト理論と教育理論・人間形成論は無関係なのだろうか。フロイトの「事後性」概念からけんとうするならば、フロイトの症例にみられるような「事後的」な作用は、教育にも、人間形成にも認められるはずである。そこで文学などから、こうした事後的な人間形成の有り様を示すことによって、教育する-その成果が出る、と行った直線的な員が関係論にとらわれない人間形成のあり方を提示した。

以上が、本研究の主な成果である。

他にも、研究を進めながらも、いまだ出版に至っていないものもある。これらについては後の出版をもって報告と代えたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 下司 晶	4. 巻 123
2. 論文標題 外傷原則の彼岸 フロイト「事後性」論の教育学的転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 ブリッツマン デボラ・P, 須川 公央（訳）	4. 巻 123
2. 論文標題 フロイト思想と学びの他者性への転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 須川公央, 白銀 夏樹	4. 巻 123
2. 論文標題 研究討議 精神分析と教育 教育理論としてのフロイト思想 研究討議に関する総括的報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 野見収	4. 巻 124
2. 論文標題 「神即自然」にふれること アルチュセールにおけるスピノザ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 96-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関根宏朗	4. 巻 44
2. 論文標題 道徳教育において「生命」を問うこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Geshi	4. 巻 6
2. 論文標題 Beyond the Trauma Principle in Education: Does Freud's Concept of "Nachträglichkeit" imply Possibility of "Retroactive Education"?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 E-journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan,	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimihiro Sukawa, Natsuki Shirokane	4. 巻 6
2. 論文標題 A Summary Report of the Symposium on "Psychoanalysis and Education: Freudian Thought as an Educational Theory	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下司 晶・須川中央・安道健太郎・宮澤康人・櫻井 歓・後藤悠帆	4. 巻 29
2. 論文標題 教育学のフロイト受容を問いなおす 宮澤康人氏の仕事を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 139 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 デボラ・P・ブリッツマン（翻訳：須川公央）	4. 巻 63
2. 論文標題 他者性の教育理論としてのフロイト思想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育哲学会 第63回大会 発表原稿集録	6. 最初と最後の頁 196～205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下司 晶	4. 巻 63
2. 論文標題 外傷原則の彼岸 フロイトの「事後性（Nachträglichkeit）」と教育の(不)可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育哲学会 第63回大会 発表原稿集録	6. 最初と最後の頁 214-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野見収	4. 巻 1
2. 論文標題 断絶としての教育 L.アルチュセール思想の再検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学大学院教育学研究科 博士論文	6. 最初と最後の頁 1-320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野見収	4. 巻 23
2. 論文標題 ルイ・アルチュセールにおける重層的決定論の再考 「鎖の両端」の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会文化研究（社会文化学会）	6. 最初と最後の頁 95-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 デボラ・P・ブリッツマン（翻訳：須川公央）	4. 巻 123
2. 論文標題 フロイト思想と学びの他者性への転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 下司 晶	4. 巻 123
2. 論文標題 外傷原則の彼岸 フロイト「事後性」論の教育的転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 23～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白銀夏樹・須川公央	4. 巻 123
2. 論文標題 課題研究「精神分析と教育」研究討議に関する包括的報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 36～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 波多野名奈	4. 巻 123
2. 論文標題 自我形成における皮膚の経験と機能 - E.ピックの皮膚の理論を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 43～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Akira GESHI	4. 巻 6
2. 論文標題 Beyond the Trauma Principle in Education: Does Freud's Concept of "Nachträglichkeit" imply Possibility of "Retroactive Education"?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 E-journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Natsuki SHIROKANE / Kimihiro SUKAWA	4. 巻 6
2. 論文標題 Summary Report on the Symposium "Psychoanalysis and Education: Freudian Thought as an Educational Theory"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 E-journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Deborah P. Britzman、西見奈子、下司 晶、西平 直、白銀夏樹、須川公央
2. 発表標題 精神分析と教育 教育理論としてのフロイト思想
3. 学会等名 教育哲学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 野見収	4. 発行年 2022年
2. 出版社 編集工房 東洋企画	5. 総ページ数 305
3. 書名 人権2021 (沖縄国際大学公開講座31)	

1. 著者名 下司 晶	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 208
3. 書名 井ノ口淳三編『道德教育 改訂二版』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	須川 公央 (Sukawa Kimihiro) (80581561)	白梅学園大学・子ども学部・准教授 (32808)	
研究分担者	波多野 名奈 (Hatano Nana) (80574201)	千葉経済大学短期大学部・その他部局等・准教授 (42505)	
研究分担者	関根 宏朗 (Sekine Hiroaki) (50624384)	明治大学・文学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	野見 収 (Nomi Osamu) (00511164)	沖縄国際大学・法学部・教授 (38001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

カナダ	ヨーク大学(トロント)			
-----	-------------	--	--	--